

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一通 第61号

発行:2018年4月30日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・FAX 082-428-0160・082-428-1360

宗祖親鸞聖人降誕会法座

日 時 5月23日（水） 9:00～15:00頃

朝席 9:00～ 13:00～



ご講師 牛尾 かおり 師（広島市安佐北区深川 明光寺坊守）

第79回歎異抄輪読会

日 時 5月24日（木） 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です

安居会法座

日 時 6月19日（火） 9:00～15:00頃

朝席 9:00～ 13:00～

講 師 天野 英昭（天龍寺副住職）

★天龍寺仏教壯年会 月例会

5月31日（木） 19:00～20:30

★天龍寺仏教婦人会

別院清掃奉仕 6月5日（火） 9:00～14:00（昼食時間を含みます）

天龍寺清掃奉仕 6月9日（土） 13:30～15:30

天龍寺佛教婦人会法座並びに演奏会のお礼

先月4月15日（日）に当山で、天龍寺佛教婦人会法座並びに演奏会がありました。遠近各地より、多くの方のご参詣をいただきました事、厚く感謝申し上げます。さらに法座・演奏会を行うにあたり前日より天龍寺佛教婦人会・天龍寺佛教壯年会のみなさまにはお忙しい中、お手伝いをいただきました事に重ねて感謝申し上げるしだいです。

演奏会に来てくれました小玉さん・高野君には東京より駆けつけてくれてありがたいと思ったことでもあります。また、来年も二人が来てくれ、演奏をしてくれます。また、みなさま方のご理解・ご支援・ご協力等を賜りながら、この度の様なご縁をいただけましたらありがたいと存じます。

私という存在 Ⅲ



さらに仏教では四顛倒してんとうという言葉があります。それは『常あることなきに常ありと願う。』『樂あることなきに樂ありと願う。』等とこの点もご教示頂いたことあります。

現在自分の回りにある物は、具体的に申すれば、家族・財産・健康・地位・名譽等は、様々な縁に依って今私の所にあり、よってその目に見えない縁の一本の糸が切れた場合、四散していくという事です。

故に全ての物は縁に依り成り立っており、この事をお釈迦様は「無我」とお説きになられました。
(但し、自分が無いという事ではありません。)

しかし、私たちは自分の我執からついに家族・財産等を自分の物と思っています。謙遜ではなく私自身が我執の塊だと認識しております。この我執は本当に根深いものがあると思っております。

以前、この様な事をご教示頂いた事があり、私はその場で納得したことですが、例えば小・中学校時代のクラス写真を見る時、必ず最初に自分の写真を見る。また、運動会などでは、最初に自分の子どもを探し、自分の子どもを応援する等々・・・この事が善い・悪いという問題ではなく、それほどまでに自己に対する執着が深く・強いものだとご教示頂いたことあります。

「觀無量寿經」の中で、人間と言う存在を大きく三つ（上品・中品・下品）に区分されており、
さらにそれぞれに三つ（上生・中生・下生）と位置づけてあります。

上品は、自利利他行、中品上生と中品中生は、自力行、中品下生は、世間善で親・夫・妻・友人等に愛情示すと承ったことです。

では、自己中心的な私たちは浄土真宗ではどこに位置しているかと申しますと、下品と位置付けられています。よくよく考えてみると、自利利他行・自力行・世間善すらまともに出来ない自分を思いますに、その場で納得した事もあります。

しかしながら上品・中品には善知識（よき師・よき友）は説かれておらず、また、念佛申せとも説かれていないそうです。上品・中品の人は、自ら菩薩道を歩むことが出来るからだともご教示いただいたことあります。

その意味に於いて、下品に位置する存在である私であるが故に、よき師・よき友に恵まれ、念佛しながら人生を歩むことが出来る事に感謝したことでもあります。（次号に続きます。）